



⑨ 越前がに等県産素材を活用した健康によい鶏卵生産技術の確立（H22～23年度）

実施主体：畜産試験場
 担 当：家畜研究部中小家畜研究G
 連携機関：県立大学

I. 研究の目的・必要性

本県は、越前がにや越前そばの産地であり、健康によいとされる栄養成分を含んだ越前がにのカニ殻やそば製粉屑が食品廃棄物として排出されている。また、転作作物として作付けされている六条大麦からは規格外の大麦が食用外に出荷されている。そこで、越前がにのカニ殻等県産素材を活用した規格外大麦主体自家配合飼料給与により、健康によく付加価値の高い鶏卵を生産する技術を開発する。

研究項目	研究内容	実施年度	
		H22	H23
県産素材の健康によいとされる栄養成分の検索	1) 県産素材（カニ殻、そば製粉屑）の添加による卵への影響について	 健康によいとされる成分の種類の検索と移行率等の検討（アスタキサンチン、ルチン等）	
健康によいとされる栄養成分の安定移行量の検討	1) 県産素材の添加割合の違いによる移行量等の検討 2) 産卵成績、飼料効率、卵質、脂肪酸組成の検討		
長期給与による健康によいとされる栄養成分の安定性の検討	1) 健康によいとされる栄養成分の移行量、移行率、安定性の検討 2) 産卵成績、飼料効率、卵質、脂肪酸組成の検討 3) 経済性の検討、飼養管理マニュアルの作成	 長期給与効果の検討	

3. 期待される成果等（成果目標）

- ・鶏卵の高付加価値化による養鶏農家の経営安定、県民の健康長寿の推進（アスタキサンチン等の移行量：鶏卵1個当たり0.15mg、移行率：10%）
- ・農産副産物や食品廃棄物の活用による飼料自給率の向上

4. 予算額 866千円（一般864千円、財産収入2千円）